

Yamakado News Letter



今回の一般参加者28名 (Photo 田中)

山門水源の森 現地交流会を開催

11月13日(土)、山門水源の森現地交流会を開催しました。今年の現地交流会は、日程や内容の大枠を決める期限の8月の時点では、開催できるのかわからない状態でした。8月といえばオリンピックの真っ最中でしたが、その開催中に感染者数が急拡大していたことは皆さん記憶に新しいと思います。もしかしたら、対面交流のイベントはできないかもしれない…企画準備に気持ちが乗れない時期が続きました(20年史編集作業という別の作業に忙殺されていたというのがあります)。

幸いにも、9月以降には感染者数が激減したので催行が可能な状態になりました。とは言っても、例年のような100人規模のイベントは難しいと考え、募集人数を30人に絞りました。湖北地域への新聞折込チラシやSNSで告知をしたところ、定員一杯の参加申し込みがありました。その内訳は8割が長浜、米原市在住の方方で、そうした地元の方々に興味を持ってもらえることは有り難いことだと考えています。

今回はテーマを「森の健康、あなたの健康」としました。昨年から続くコロナ禍で、私たちの暮らし方は大きく変わってしまいました。新型コロナウイルス感染症の急拡大と、生物多様性の劣化には関連性があるとの指摘もあります。健康というキーワードは、こうした現実を踏まえ、森の健康と私たちの健康には深い繋がりがあることを感じてもらう、そのきっかけにしたいと考えました。そうした関心の延長上に、私たちが行なっている生物多様性を保全する活動への関心や理解も深まると考えました。

と言っても、一般者を対象にしているので、あまり難しい解説は避けたいところです。そこで、解説はコンパクトにまとめて、テーマに関する内容は各ガイドで大きく変わらないように、小冊子を作成することにしました。それ以外のコース沿いに見られる動植物や、ここでの保全活動の内容については、各ガイドにお任せして、それぞれが感じているこの森の魅力や、関わっている保全作業などを交えて案内をしてもらいました。



小冊子のQRコード



天然更新試験地を解説 (Photo 田中)



四季の森で昼寝体験 (Photo 田中)



県境で植生の荒廃を観察 (Photo 藤本)



七曲防獣ネットの撤収 11/25 (Photo 藤本)



ササユリの復習と観察 11/8



湿原沿いに播種 (Photo 藤本)

その他、今月の活動

11月8日、西浅井中2年生21名が保全作業に来訪。2年生には毎年ササユリの種蒔きをしてもらっています。まずは研修室でササユリについて復習と種の観察。その後、湿原沿いの保護区内に種を蒔いてもらいました。彼らが蒔いた種は、うまく生育すれば7年後の成人した頃に花を咲かせます。

11月20日はシカの頭数密度を推定する糞粒調査を実施。2015年から定期的に行なっています。傾向として、頭数密度の減少が続いています。今年の糞数は昨年と比べても半分以下と大きく減りました。密度計算は回収した糞数を元に森林総研関西支所にお願ひしています。計算結果の返信があれば、改めてお知らせしたいと思います。



糞粒調査の様子 11/20



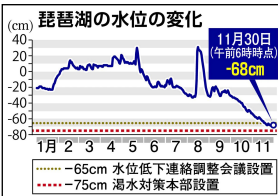
ササユリの殻が弾けた様子 11/21

しかし、湿原や林床の植物の再生状況を観察していると、計算結果を待たずとも食害の影響が大きく減っていることが実感できます。近年はネットで保護していない区画でもササユリの蕾が食われることなく花を咲かせ、種子を実らせる株が増えてきました。もちろん全てが無傷ではなく、食われてしまうササユリもあります。しかし、全滅ということはありません。

11月も後半になると、ササユリの蒴果が乾燥して弾け、中の種が風の力で押し出されて周辺に散布されていきます。それを見届けて、防獣ネットの撤収作業を順次おこないました。

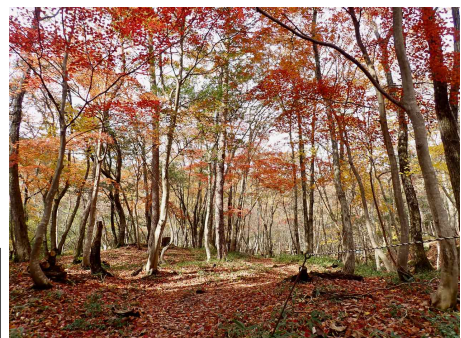
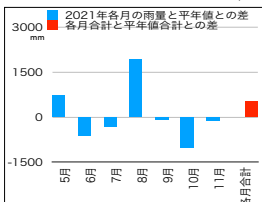
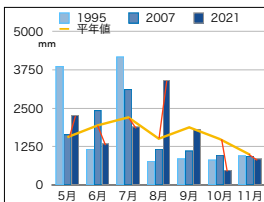
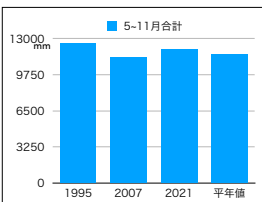
水源の森から琵琶湖の水位の推移を推論

11月30日の産経新聞web版で、琵琶湖の水位低下についての記事がありました。水位が2007年以来の低水準とのこと。その原因の言及はありませんが、降水量が少ないことが容易に想像されます。しかし、果たしてそうか。少し調べてみることにしました。データは気象庁の「過去の気象データ・ダウンロード」を活用し、今年と2007年、-123cmを記録した1995年、それと平年値を比較しました。降った雨は一部を除き、河川を通じ全て琵琶湖に注がれます。県内観測点で月合計のデータが取れた点が柳ヶ瀬、土山、今津、長浜、南小松、彦根、東近江、近江八幡、大津、信楽の10ヶ所あります。これを琵琶湖に降る雨のモデルとして、その5月～11月の降水量月合計の値と、平年値を比較しました。



産経新聞Webより

その結果、全期間では平年値と大きな差は見られませんが、9月～11月の秋季に平年値より低い傾向が見られます。総雨量に差はないが、季節毎の差が激しいと言えます。Webニュースを検索した範囲では、水位低下と気候変動との関連を述べた記事はありませんが、環境関連の研究では地球温暖化と極端な気象条件の増加との関連が指摘されています。そうした視点で琵琶湖の水位低下を考えてみるのも面白いのではないのでしょうか。



今年も紅葉が楽しめた四季の森 11/24